

# 武部勤のアジアの未来図

## 「ビンズオン新省都」移転セレモニーに出席 ベトナムの「ニュー・スター」、ダム副首相と会談



武部 勤氏 略歴

前衆議院議員（8期）。農林水産大臣（第33代）、自由民主党幹事長（第39代）、衆議院議院運営委員長（第63代）を歴任。

議員時代にベトナム友好議連会長、インドネシア友好議連会長、メコン友好議連会長、モンゴル友好促進議連会長、バーレーン友好議連会長を務めたほか、昨年3月1日には社団法人日本ベトナム経済フォーラムの名誉会長に就任するなどアジアを中心とする諸国との友好に尽力。このほど一般財団法人「東亜総研」を設立し代表理事に就任。

2月19日から23日にかけ、またもやベトナムを訪問してきた。2月20日にビンズオン新省都において開催された省都移転セレモニー（ビンズオン省統合行政センター落成式典）に出席するためである。セレモニーはズン首相や各国の大使、公使をはじめ、政財界の要人が数多く出席する盛大なものであった。ビンズオン省は、2020年にハノイ市やホーチミン市と同等の中央直轄市となることが決まっている。

今回も、私のライフワークとなった「日越大学」設立に向け様々な要人と会談することができた。とくにベトナムの「ニュー・スター」「次の首相候補」と呼ばれながらも、日本ではその素顔がほとんど知られていないヴー・ドゥック・ダム（Vu Duc Dam）副首相との会談は有意義なものとなった。

### 交通分野でも アジアンスタンダード確立を！

日本は何故、左通行なのか——。のっけから妙な問い合わせであるが、もう一度皆さんに考えて欲しい。自動車の左通行を採用している国は、旧イギリス領およびイギリス連邦加盟国のほか日本、タイ、インドネシアなど少数。ベトナムを含むインドシナ3国、中国、ミャンマーと右通行の国が圧倒的に多いのだ。

アジアのボーダレス化が進むなかで国境をトラックで越えるクロスオーバー・ロジスティクスの必要性が盛んに叫ばれているが、ここでも右ハンドルと左ハンドルの違いがネックとなっていることは周知の通りである。

もちろん日本およびアジア諸国にはそれぞれ歴史と事情がある。しかし、そうしたものを乗り越え、新たな共通の枠組みを作るべき時が来ている。

かつて私は「交通システムのグローバル化とサマータイム制の導入こそが日本大改革の柱であり、もしこれが実現すれば日本にもう一度、日が昇るであろう」と訴えたことがあり、その想いは今も変わらない。

これは何も交通に限ったことではない。5K（教育、健康、環境、交通、雇用）のいずれの分野でも、共通のルール「アジアンスタンダード」を作る必要があると考えている。アジアは若く、人口急増地帯もあり、マーケットとしても可能性は大きい。日本はそのなかで大きな役割を果たすことができるはずである。

### 「ベカメックス東急バス」設立

さて、その5Kのひとつ交通分野で、新たなアジアンスタンダード発信の動きが始まっている。

前述の移転セレモニーでは、レ・タン・クン委員長（知事）から日系企業8社を含む24社に現地法人設立の認可が授与されたが、ひときわ注目を集めめたのが東急電鉄の現地合弁会社「ベカメックス東急」の100%出資子会社「ベカメックス東急バス」への投資許可であった。

ビンズン新都市においては、今後の公共輸送機関としてどういったものが最適であるかが問題となっているが、それに対する東急からの回答が同事業である。

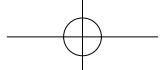
ベカメックス東急バス社は、旧市街トゥーヤモット市内からのシャトルバス路線、新都市内の循環路線のほか、将来的にはホーチミン市へのアクセス強化を考えている。鉄道には財政問題もあることから、現実的かつ即応性の高い施策といえる。

都市部への人口集中に伴う交通渋滞、環境悪化、交通事故は、ベトナムに限らずどの新興国においても深刻な問題となりつつある。

ベガメックス東急バスの提案は、これら問題に対する切り札となるものだ。同社ではすでにビンズオン省庁との契約で3,000人の公務員に対し定期券を発行することを決めている。これはバス利用への切り替えを促進する施策であるが、ベトナムという社会主義国家においては前代未聞の大改革である。これを機に交通費の給付やプリペイドカードが、ベトナム社会に根付く可能性すら見えてくる。

もちろん課題がないわけではない。運行するバスが韓国から輸入となつたこと、70%という高い関税がかかることなど。

私はベトナム政府から支援を引き出すことで日本メーカーとの協業による現地生産への道を開きたいとい



ダム副首相との会談は和やかに進んだ

#### ■ダム副首相略歴

氏名	ヴー・ドゥック・ダム
現職	副首相、党中央委員
生年月日	63年2月3日
出生地・出身地	ハイズオン省(北部)
学歴	88年 ベルギーULB大学卒 (コンピュータ工学)
職歴	96年8月~98年8月 首相秘書官 98年8月~03年3月 首相補佐官 11年1月 党中央委員に初選出 11年8月 政府官房長官 13年11月 副首相
その他	グエン・スアン・タンVSA院長の世界 経済研究所時代の生徒。 情報・通信技術に明るく、謙虚でそつがなく、ゴルフ好き。

う夢があるが、裾野産業不足や技術レベルの問題で、これも一筋縄ではいきそうにない。

しかし社会の変革期(チェンジ)において機会(チャンス)を捉え、挑戦(チャレンジ)する気概を持つことが、日本の自動車業界には求められよう。

ベトナムも同様だ。ハイクオリティのバスを、日本国との技術協力や資金援助を受けてメイドイン・ベトナムで生産できるようにすれば、国産自動車の育成と環境対策という2つの命題を一挙に解決するチャンスではなかろうか。

## 次世代のニューリーダー ダム副首相との会談

さて21日はファン・バー・ルアン教育訓練大臣、グエン・スアン・ニヤ国家大学ハノイ校(VNUハノイ)学長そしてベトナム側で最も力を入れてくれたトゥ・フィ・ルア越日議連会長ら要人と相次いで会談を行い、「日越大

学構想」について意見の交換、摺り合わせを行った。私からの提案は、日越大学のFS(フィージビリティスタディ)実施に向けたベトナム政府からの要請をいそいで欲しいという点。

ここではとくにダム副首相との会談の様子を詳述したい。

ダム副首相は、1963年生まれの51歳と若く2011年8月に政府官房長官(大臣級)に就任。昨年11月の国会で副首相に任命された人物。次の首相候補とも目されているベトナムのニュー・スターである。

もう少し詳しく紹介したい。風貌は元首相のファン・ヴァン・カイさんの若い時に似ており、学校の教師のようにも、優秀な高級官僚にも見える。オシャレでセンスのある方である。

今までのベトナムの指導者にはいなかったタイプだ。あくまで私の印象であるが、日本でいうところの下村博文さん(文部科学省大臣)、菅義偉さん(官房長官)と重なる。変なハッタリもなく、冗談も言わない代わりに、高潔で肝が座った信頼できる人だと思った。

#### 当日の議事録よりダム副首相の発言 要旨(編集部)

ダム副首相「今日は武部(日越友好議連)特別顧問とお会いできて大変嬉しい。特別顧問は歴代のベトナム指導者と大変親しい関係を築いておられる」と承知している。

日越大学については2016年に大学院大学の設置を目指すとのこと。3年間はあっという間であり、成果を生み出せるよう注力したい。具体的課題については、すでに関係機関に具体的な担当を設置するよう指示をしたので、日本側にも同様の担当を決めて欲しい。

ズン首相からも首相府および関係

機関に対してしかるべきフォローするようにと指示が出ているので安心して欲しい。

個人的にも関心があり、何か問題があれば直接、私と協議していただいて構わない。武部特別顧問と一緒に力を合わせて、日越大学構想を推進していきたい」

「日越関係は『同盟』と呼べるかどうかはわからないが、両国には明るく長い道が開けていると確信している。

武部特別顧問は、ベトナムの大なる友人であり、自分にとって『おじさん』(Bac)である。これから何度もお会いしたい」

ベトナムにおいて「おじさん」という呼称は最高指導者ホーチミンのことを尊敬と親愛の気持ちを込めて「ホーおじさん」と呼ぶように、特別な意味を持つ。正直驚いたが心から嬉しく思った。

私も「あなたのことを息子のように感じている。私もベトナムのことをこよなく愛しているからである。ベトナムは誇り高い国であり、愛すべき国であり、世界の平和と安定の維持に大きく寄与する国になるだろう。あなたのような次のリーダーに両国の将来を託したい」と返した。

彼はヴィー・ヴァン・キエット元首相の秘書であったことで有名だが、1年間カイ元首相の秘書も務めている。かつてカイさんに「指導者の条件とは何でしょうか」と尋ねたところ「いろいろあるが、そのひとつは『徳』だ」と言われたことがある。彼は夜の2時以前に寝たことがないという。それほど熱心に仕事をされる方だった。こうした建国の理想に燃え命をかけた指導者の生き様を見ていているわけだから、ダム副首相も魂のしっかりされた方であろう。

これからベトナムは、いわゆる普通の国としての大改革を成し遂げねばならない。汚職撲滅もそうだ。そのためには経済を活性化しなければならないが、国営企業の問題、社会主義的な市場経済からの脱皮と難問は山積している。ダム副首相のような方なら、その国難を乗り越えることができる信じている。